

C-20 Thermography—熱像法—による皮膚温測定(第2報)皮膚温の日内,月間,
年間変動(予報)

文化女大家政 渡辺ミチ ○田村照子

目的 人間-被服-熱環境系における皮膚温研究にあたって先ずその日内,月間,年間変動の有無と程度とを各被検者について検討したいと考えた。

方法 測定項目は,サーモグラム(20面),直腸温,酸素消費量,発汗量,脈拍数,血圧,温冷感。被検者は近裸体の状態で温度 $28.5 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$ の予備室に60分安静椅座位の後,各条件の人工気候室に入室。測定は入室直後及び120分後に行なった。被検者数は各実験共に女子学生10名。(1) 日内変動:測定時刻は,14:00, 16:00, 18:00, 20:30, 8:00, 10:00, 12:00。環境条件は温度 $28 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$,湿度 $50 \pm 10\%$ 。(2) 月間(性周期)変動:測定は,各被検者の基礎体温の低温期・高温期各3回,計6回。いずれも午前中に行なった。環境条件は温度 $25 \pm 0.5^{\circ}\text{C}$,湿度 $50 \pm 10\%$ 。(3) 年間(季節)変動:測定は1-2月, 4-5月, 7-8月, 10-11月(予定)の各季に,被検者の低温期に合わせて行い,時刻は被検者毎に年間通して一定とした。環境条件は温度 23°C , 28°C , $33^{\circ}\text{C} \pm 0.5^{\circ}\text{C}$,湿度 $50 \pm 10\%$ 。

結果 (1) 日内変動は前額・上腹にみられ,午前より午後さらに夜間と次第に高くなる傾向にある(10例中6例)。他の部位は変動に一定傾向が見出せない。(2) 排卵前後の基礎体温の変動が比較的明確な被検者(10例中5例)では,概して皮膚温(特に乳房を中心とする軀幹部温)と基礎体温とは周期的に変化し,低温期には低温を,高温期には高温を示す。一方,基礎体温の変動の不明確な他の5例の被検者では,皮膚温も一定の傾向を示さない。(3) 季節変動は,環境温度 28°C , 33°C では,冬季より夏季に皮膚温の低下がみられたが, 23°C ではバラツキが大きく,一定の変動傾向は認められない。